

あつくるはあ
いれりし
いれりのる

いれりし

あつくるはあ
いれりし
いれりのる
あつくるはあ
いれりし
いれりのる
あつくるはあ
いれりし
いれりのる

あつくるはあ
いれりし
いれりのる
あつくるはあ
いれりし
いれりのる

あつくるはあ
いれりし
いれりのる

あつくるはあ
いれりし
いれりのる



年不詳十月廿二日付け仙石忠政書状（仙石家17―2号）

返々、いろくの
物こしらへ候て、
もち候て可参候、
かしく、

（四郎右衛門）

四らうへもん殿へ人を
つかはし候間、一
筆申候、

一、 貴殿事何事

（息災）

なくそく才に
いられ候よし、
夕おばかたより
申来たり、さてく
大慶候、く、
我々事も何
事なく候間、
可心安候、ひま明、
やかてく、帰
候て、かたり可申候、
あげくれ貴殿

の事まで扱々、
くわしく申

度候へとも、いそぎ

（政俊）

早々申候、兵介・

（政則）（芝子）

少五郎・およめへ
ふみにて可申候
へともいそぎ候間、

事つてと

可申候、

めてたく

かしく、

兵太

十月廿二日 忠政 (花押)

(政勝)

万千代殿

まいる

【翻刻作成】豊岡市立歴史博物館